



平成 24 年 12 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成 24 年 10 月 30 日

上場会社名 株式会社ペッパーフードサービス 上場取引所 東
 コード番号 3053 URL http://www.pepper-fs.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 一瀬 邦夫
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部 総務部長 (氏名) 猿山 博人 (TEL) 03 (3829) 3210
 四半期報告書提出予定日 平成 24 年 10 月 30 日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成 24 年 12 月期第 3 四半期の業績 (平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24 年 12 月期第 3 四半期	3,885	1.6	52	△29.6	40	△42.8	1	—
23 年 12 月期第 3 四半期	3,822	△8.4	74	191.3	70	—	△26	—

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24 年 12 月期第 3 四半期	41.90	41.32
23 年 12 月期第 3 四半期	△1070.12	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24 年 12 月期第 3 四半期	1,568	273	16.9
23 年 12 月期	1,586	101	5.6

(参考) 自己資本 24 年 12 月期第 3 四半期 265 百万円 23 年 12 月期 88 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23 年 12 月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24 年 12 月期	—	0.00	—	—	—
24 年 12 月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成 24 年 12 月期の業績予想 (平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日)

(%表示は、通期は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,251	1.3	126	△5.8	114	△12.5	56	99.1	1,974.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年12月期3Q	28,364株	23年12月期	24,364株
② 期末自己株式数	24年12月期3Q	一株	23年12月期	一株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年12月期3Q	25,561株	23年12月期3Q	24,364株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	7
(4) セグメント情報等	7
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間における我が国経済は、東日本大震災の復興需要を背景に、引き続き国内の関連需要が高まり、景気回復の動きが緩やかには見られたものの、円高や株価の低迷、欧州政府債務危機を巡る不確実性が依然として高く、世界景気の更なる下振れ懸念の高まり、電力供給不足による事業活動への影響など、依然として景気の先行きは不透明な状況で推移しております。外食産業におきましても、原発事故による放射能汚染問題や食中毒事故の影響により食の安全に対する不安感から発現する防衛意識の向上、増税への政府指針等による節約志向から依然として厳しい経営環境が続きました。

こうした状況のもと、当社は売上高増大のため、海外出店の強化と国内における新商品の開発、顧客サービスの充実を図ってまいりました。また、安心・安全な商品を提供できる体制の更なる強化に努めてまいりました。

しかしながら、主力商品の牛肉価格の高騰に伴い原価率が上昇したこと、「ペッパーランチダイナーUENO3153店」オープンに伴う費用を計上したこと、更に貸倒引当金繰入額を営業外費用項目に16百万円計上したこと、対策を講じたにも拘わらず収益力の回復を図れなかった店舗において減損損失が発生したために、特別損失を13百万円計上したことなどから、特に利益面で当初計画値との乖離が大きくなりました。

これらの結果、当第3四半期累計期間における業績は、売上高3,885百万円（前年同期比1.6%増）、営業利益52百万円（前年同期比29.6%減）、経常利益40百万円（前年同期比42.8%減）、四半期純利益1百万円（前年同期は26百万円の四半期純損失）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① ペッパーランチ事業

ペッパーランチ事業につきましては、創業以来18年、券売機とカウンター席でステーキをリーズナブルにスピード提供する事により成長してきましたが、低価格競争の激化、お客様ニーズの変化に対応できる店舗の必要性から9月に次世代ペッパーランチのモデルとなる「ペッパーランチダイナーUENO3153店」を上野公園前UENO3153内にオープンいたしました。店舗デザイン、レイアウトを一新しテーブル席の充実を図り、メニューも既存のものに「100%ビーフ肉塊ハンバーグ」、「ロテサリーチキン」などを加え、さらにワインを20種類程度揃えた全く新しいタイプの店舗となりました。販売促進活動としては、引き続き携帯向けアプリ「ポケペ」（スマートフォン用ペッパーランチ公式アプリケーション）の作成と共にお得な電子クーポンの配信やホームページの大幅リニューアルによるブランドイメージの向上、ホームページにリンクする仕組みによるYouTubeでのペッパーランチ動画CMと様々なWEB戦略に取り組んでまいりました。海外におけるペッパーランチは、引き続き好調に推移しており出店舗数は121店舗となり、機器等の売却(一部の取引の方法が変更となった為売上の計上方法をグロス表示からネット表示に変更したため利益部分のみが売上高となり、売上高が減少)、ロイヤリティ収入、プライベートブランド食材の収入などの売上高は118百万円（前年同期比6.3%増）、営業利益は97百万円（前年同期比36.5%増）となりました。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は2,718百万円（前年同期比0.1%増）、営業利益は368百万円（前年同期比0.8%増）となりました。また、新規出店舗数は28店舗（うち海外26店舗）であり、ペッパーランチ事業全体の店舗数は250店舗となりました。

② レストラン事業

レストラン事業につきましては、ステーキ業態の「炭焼ステーキくに」をはじめ、とんかつ業態の「こだわりとんかつつき亭」、洋食業態の「ステファングリル」、ハンバーグ業態「炭焼ビーフハンバーグステーキくに」、ヤングファミリー層を対象としたサラダバー付き業態「太陽の家族くに」の5業態の更なるサービスの向上を徹底するとともに、業態や立地条件ごとのメニュー政策の見直しを常に行うことによる顧客満足度の向上に取り組んでまいりました。「炭焼ステーキくに」につきましては、「昼からステーキパーティー！」と銘打ち14時から18時の時間帯集客を図り客数増を目指しました。また、赤坂店、両国店の2店舗限定による月1回の「美味しいステーキを食べる夕べ」異業種交流会を継続的に開催し、ブランドイメージの向上に取り組んでまいりました。「ステファングリル」につきましては、夏季限定のメニューや「超！得とくセット」の販売により客単価増を目指しました。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は1,147百万円（前年同期比6.0%増）、営業利益は44百万円（前年同期比13.6%増）となりました。また、レストラン事業全体の店舗数は23店舗となりました。

③ 商品販売事業

商品販売事業につきましては、従来の「とんかつソース」及び「冷凍ペッパーライス」に加え、通販用として「冷凍ハンバーグ」の販売も開始し売上増大を目指しました。

しかしながら、引き続き厳しい環境下で販売拡大を図れなかったこと等により売上を伸ばすことはできませんでした。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は18百万円（前年同期比20.1%減）、営業損失は5百万円（前年同期は3百万円の営業利益）となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて18百万円減少し1,568百万円になりました。これは主に、現金及び預金が73百万円増加したこと、売掛金が41百万円、貯蔵品が20百万円、有形固定資産が27百万円減少したことによるものです。

負債合計は、前事業年度末に比べて190百万円減少し、1,294百万円となりました。これは主に、買掛金が21百万円減少したこと、借入金が147百万円減少したこと、未払金が61百万円増加したこと、未払法人税等が39百万円減少したこと及び社債が43百万円減少したことによるものです。

純資産は前事業年度末に比べて172百万円増加し、273百万円となりました。これは主に、新株予約権の行使が行われたことにより、資本金が87百万円、資本準備金が87百万円増加したことによるものです。また、自己資本比率は、前事業年度末に比べて11.3ポイント増加して16.9%となりました。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成24年10月30日付「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	137,753	211,516
売掛金	279,424	237,779
商品	24,024	17,377
貯蔵品	40,864	20,345
繰延税金資産	5,155	5,155
その他	152,410	124,110
貸倒引当金	△12,700	△8,586
流動資産合計	626,932	607,697
固定資産		
有形固定資産		
建物	556,632	592,739
減価償却累計額	△319,267	△330,850
建物(純額)	237,364	261,888
その他	521,132	522,123
減価償却累計額	△423,389	△421,602
その他(純額)	97,743	100,521
有形固定資産合計	335,107	362,409
無形固定資産	28,376	4,871
投資その他の資産		
敷金及び保証金	543,974	568,229
その他	72,153	44,607
貸倒引当金	△22,596	△21,287
投資その他の資産合計	593,531	591,549
固定資産合計	957,015	958,830
繰延資産		
社債発行費	2,406	1,549
繰延資産合計	2,406	1,549
資産合計	1,586,355	1,568,077

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	444,351	422,704
短期借入金	4,320	50,000
1年内返済予定の長期借入金	204,183	10,853
未払金	91,841	153,786
未払法人税等	71,136	31,629
賞与引当金	—	3,500
資産除去債務	1,654	2,190
その他	179,997	174,118
流動負債合計	997,484	848,781
固定負債		
社債	127,200	84,000
資産除去債務	36,186	35,956
受入保証金	318,798	317,907
繰延税金負債	4,995	4,368
その他	—	3,115
固定負債合計	487,180	445,347
負債合計	1,484,664	1,294,128
純資産の部		
株主資本		
資本金	619,541	706,845
資本剰余金	576,098	663,402
利益剰余金	△1,104,416	△1,103,345
株主資本合計	91,223	266,902
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△2,262	△1,120
評価・換算差額等合計	△2,262	△1,120
新株予約権	12,728	8,167
純資産合計	101,690	273,948
負債純資産合計	1,586,355	1,568,077

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
売上高	3,822,540	3,885,000
売上原価	1,878,671	1,946,764
売上総利益	1,943,869	1,938,235
販売費及び一般管理費	1,869,609	1,885,990
営業利益	74,260	52,245
営業外収益		
受取利息	379	210
受取配当金	69	80
受取賃貸料	1,910	3,912
協賛金収入	6,826	6,173
その他	3,364	1,984
営業外収益合計	12,549	12,360
営業外費用		
支払利息	6,478	3,591
社債利息	2,686	2,076
賃貸借契約解約損	2,248	—
貸倒引当金繰入額	1,619	15,799
その他	3,407	2,867
営業外費用合計	16,439	24,334
経常利益	70,370	40,270
特別利益		
固定資産売却益	1,400	4,890
新株予約権戻入益	800	1,153
特別利益合計	2,200	6,044
特別損失		
減損損失	31,462	13,488
災害による損失	8,807	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	18,956	—
その他	9,565	2,907
特別損失合計	68,792	16,395
税引前四半期純利益	3,779	29,918
法人税、住民税及び事業税	24,312	29,474
法人税等調整額	5,539	△626
法人税等合計	29,852	28,848
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△26,072	1,070

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

前第3四半期累計期間(自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
	ペッパーランチ 事業	レストラン事業	商品販売事業			
売上高 外部顧客へ の売上高	2,715,576	1,083,209	23,754	3,822,540	—	3,822,540
計	2,715,576	1,083,209	23,754	3,822,540	—	3,822,540
セグメント利益	364,975	39,372	3,408	407,756	△333,496	74,260

(注) 1. セグメント利益の調整額△333,496千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「ペッパーランチ事業」において、当第3四半期累計期間に営業活動から生ずる損益が著しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間においては31,462千円であります。

当第3四半期累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
	ペッパーランチ 事業	レストラン事業	商品販売事業			
売上高 外部顧客へ の売上高	2,718,264	1,147,765	18,969	3,885,000	—	3,885,000
計	2,718,264	1,147,765	18,969	3,885,000	—	3,885,000
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	368,008	44,706	△5,960	406,754	△354,509	52,245

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△354,509千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「ペッパーランチ事業」及び「レストラン事業」において、当第3四半期累計期間に営業活動から生ずる損益が著しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間においては「ペッパーランチ事業」920千円、「レストラン事業」12,567千円であります。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成24年7月11日付でエスフーズ株式会社から新株予約権の行使を受けました。この結果、当第3四半期会計期間において資本金が87,304千円、資本準備金が87,304千円増加し、当第3四半期会計期間末において資本金が706,845千円、資本準備金が663,402千円となっております。